

# COVID-19と国際エネルギー情勢

## 第2回IEEJエネルギーウェビナー

2020年5月20日

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所

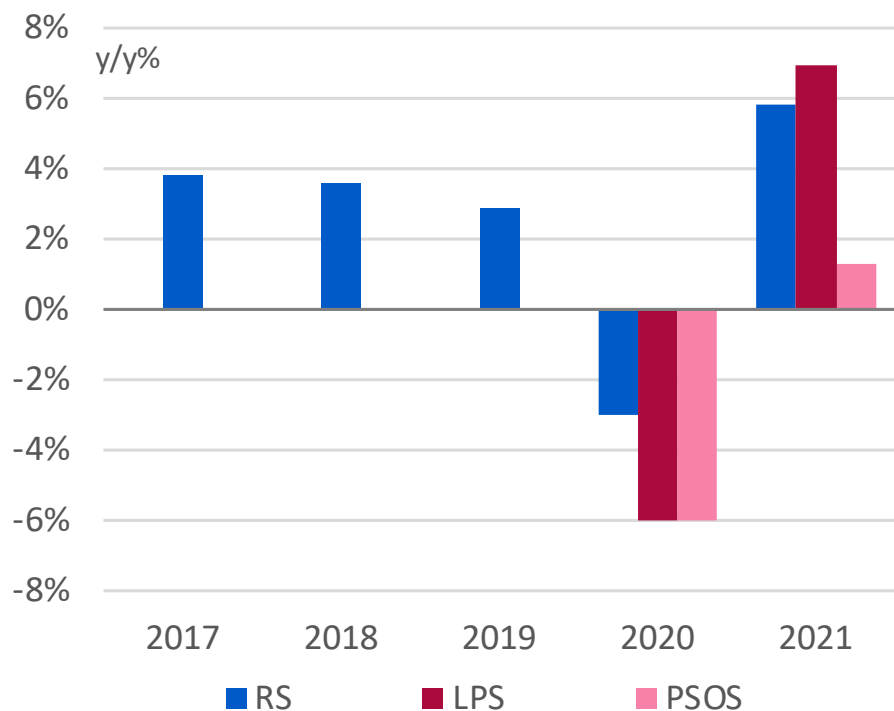
小山 堅

# パンデミック下のエネルギー情勢を見る視点

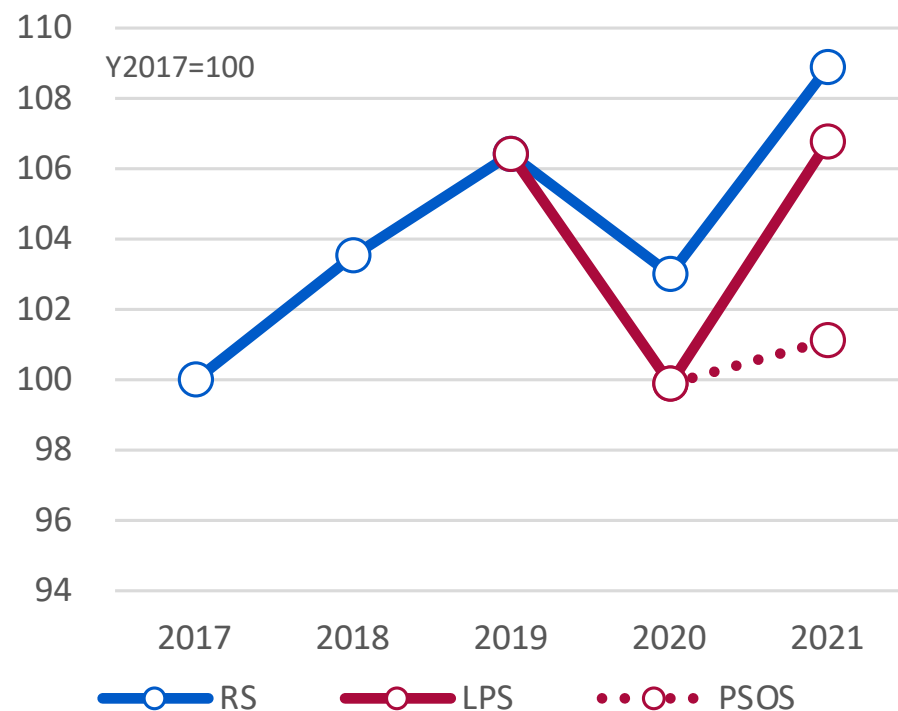
- パンデミックは終息に向かうのか、第2波・第3波は？
- 世界経済の落ち込みはどこまで悪化するのか、回復は？
- 「都市封鎖」や移動・外出制限の緩和・解除の先行きは？
- 低価格・供給過剰への供給側のレスポンスは？
- 低価格への需要側のレスポンスは？
- 「Storage Bottleneck」は発生するのか？
- 低価格によるエネルギー投資・産業・産油国情勢への影響は？
- 「ポスト・コロナ」はエネルギー情勢に構造的影響を及ぼすか？

# 2021年に至る世界のGDP（3シナリオ）

## 世界のGDP成長率



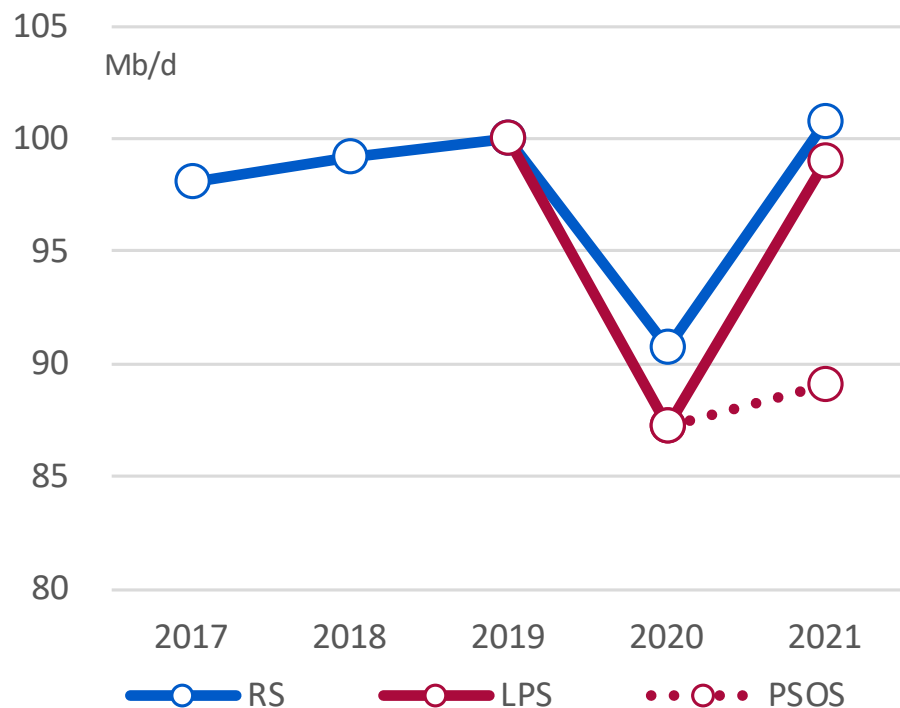
## 世界のGDP水準（2017年：100）



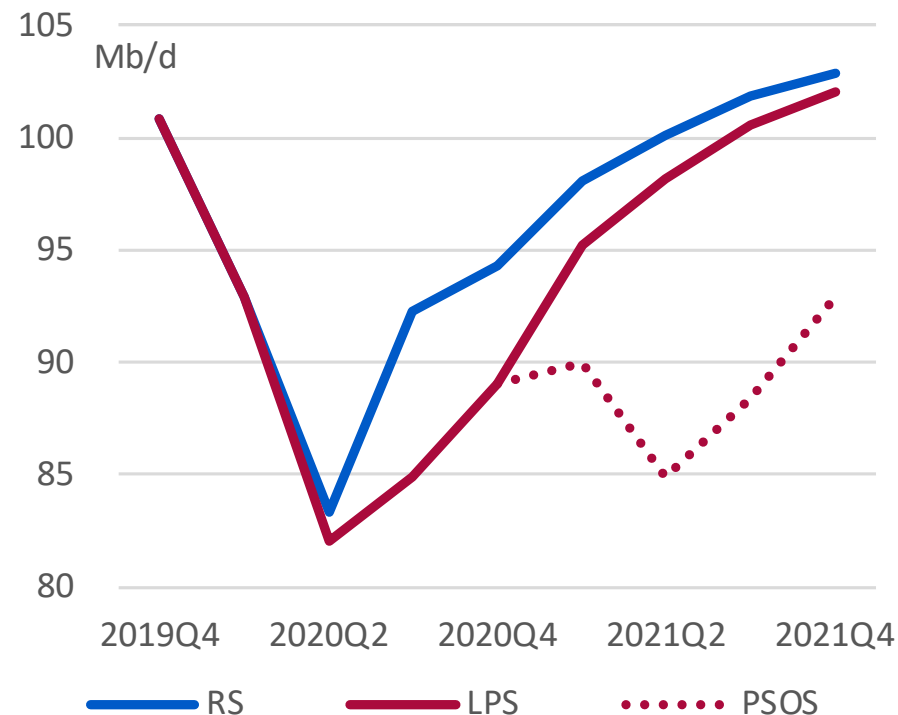
(注) RS: Reference Scenario、LPS: Longer Pandemic Scenario、PSOS: Pandemic Second Outbreak Scenario

# 2021年に至る世界の石油需要（3シナリオ）

## 世界の石油需要



## 世界の四半期別石油需要



(注) RS: Reference Scenario、LPS: Longer Pandemic Scenario、PSOS: Pandemic Second Outbreak Scenario

# IMF 「World Economic Outlook」

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2020
						1月見通し	4月見通し
世界	3.2	3.2	3.8	3.6	2.9	3.3	-3.0
OECD	2.1	1.7	2.4	2.2	1.7	1.6	-6.1
アメリカ	2.6	1.5	2.2	2.9	2.3	2.0	-5.9
Euro圏	2.0	1.8	2.4	1.9	1.2	1.3	-7.5
日本	1.2	0.9	1.9	0.3	1.0	0.7	-5.2
非OECD	4.1	4.4	4.7	4.5	3.7	4.4	-1.0
中国	6.9	6.7	6.9	6.6	6.1	6.0	1.2
インド	7.6	7.1	6.7	6.8	4.8	5.8	1.9

(出所) IMF 「World Economic Outlook」 (2020年4月)

# 足下での世界経済は想定以上の落ち込みへ

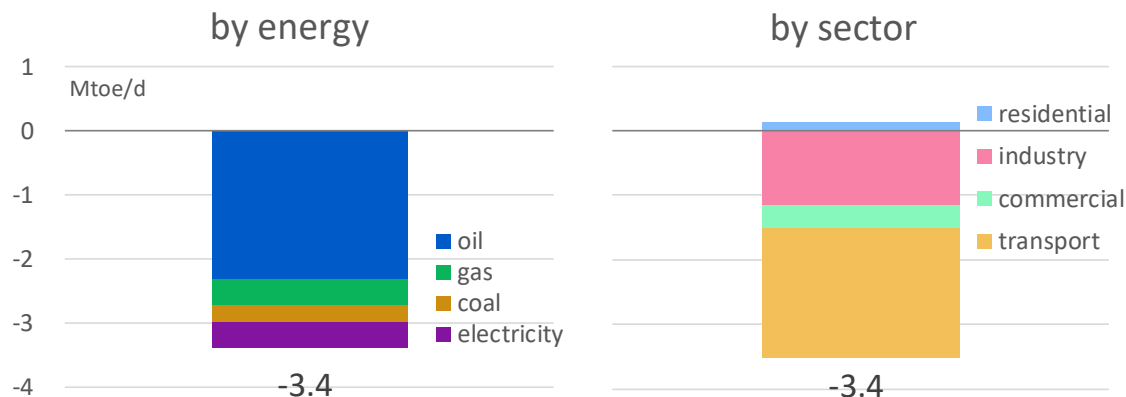
- **米国**：2020年1QのGDP、年率換算では前期比4.8%減。2Qは同40%減の予測も
- **ユーロ圏**：2020年1QのGDP、年率換算では前期比14%減。2Qはさらに悪化の見通し。
- **IMF、世界経済見通しの下方修正の可能性示唆**

# 経済活動再開や移動・外出制限の緩和・解除

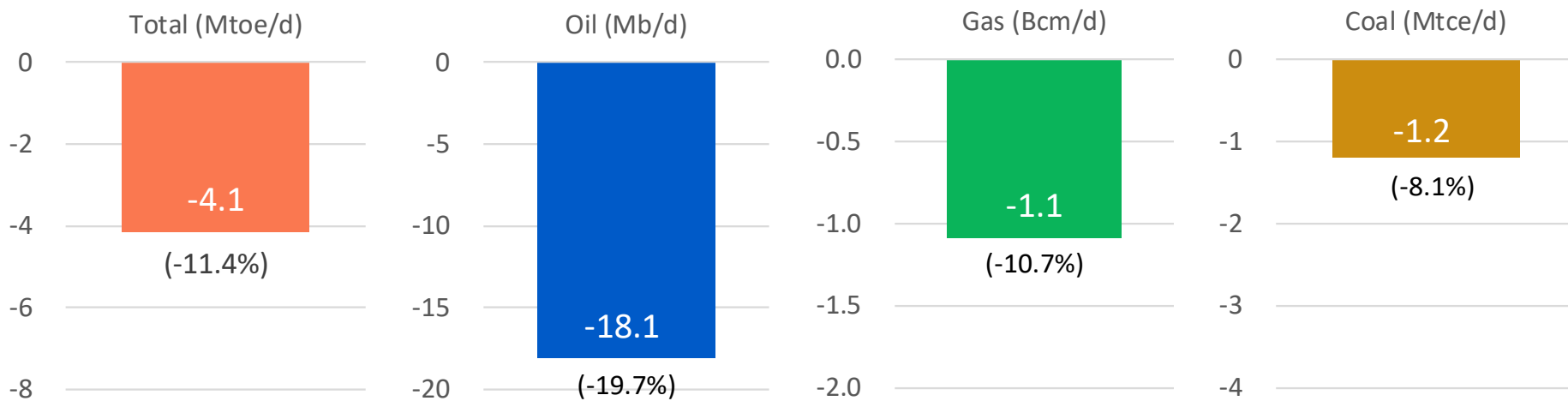
- イタリア：5月4日から一部解除。段階的緩和へ
- ドイツ：5月6日に「都市封鎖」段階的解除方針発表
- フランス：5月11日から「都市封鎖」段階的緩和へ
- 米国：トランプ大統領「日常生活に戻り始めるべき」。各州で経済活動再開を目指す動きへ
- 日本：5月14日、39県で「緊急事態宣言」解除
- アジアでも多くの国で同様の動きへ

# 「都市封鎖」による世界のエネルギー需要減少

## 最終エネルギー：エネルギー別/部門別



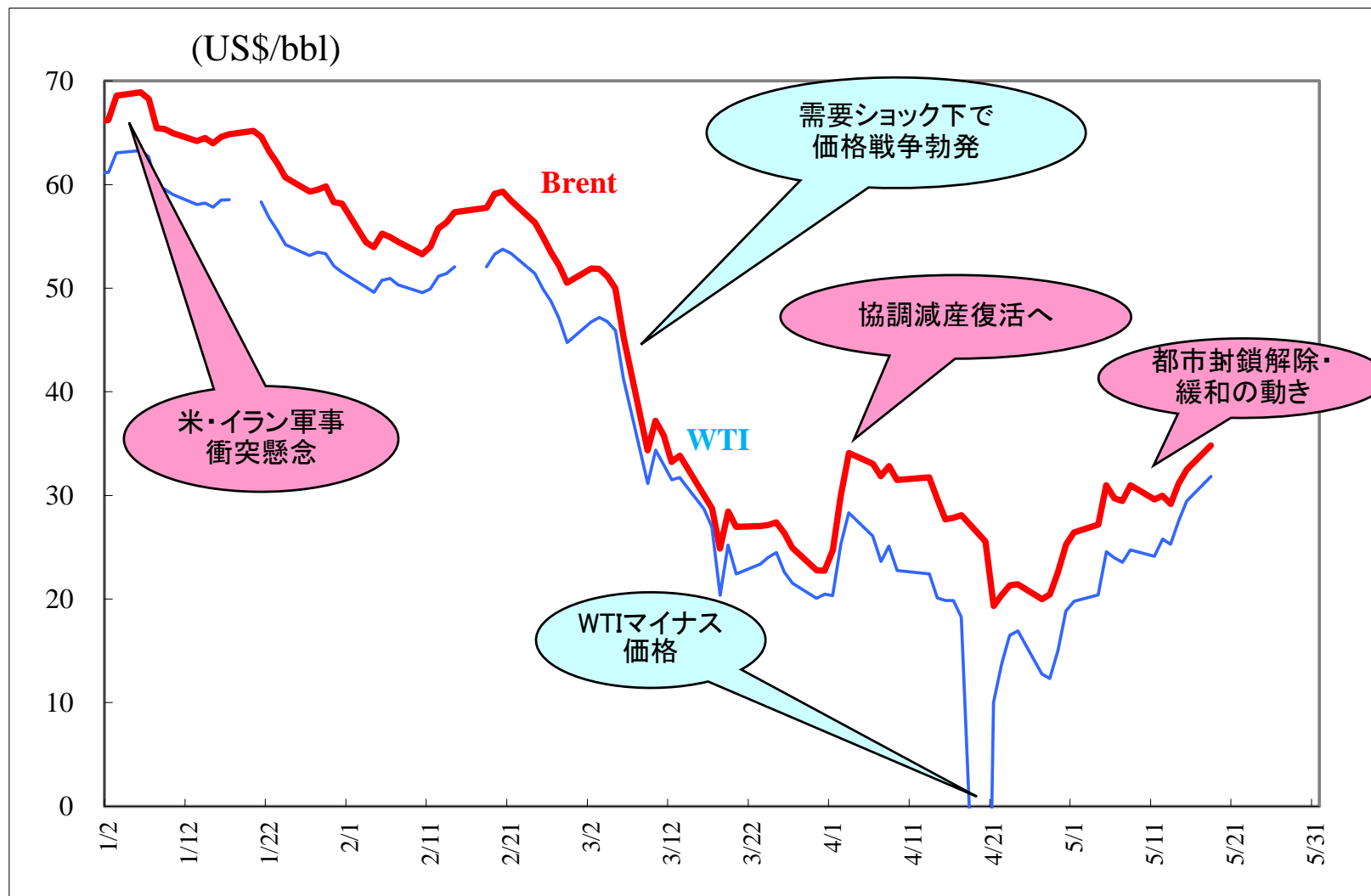
## 一次エネルギー：エネルギー別





# 2020年の原油先物価格動向

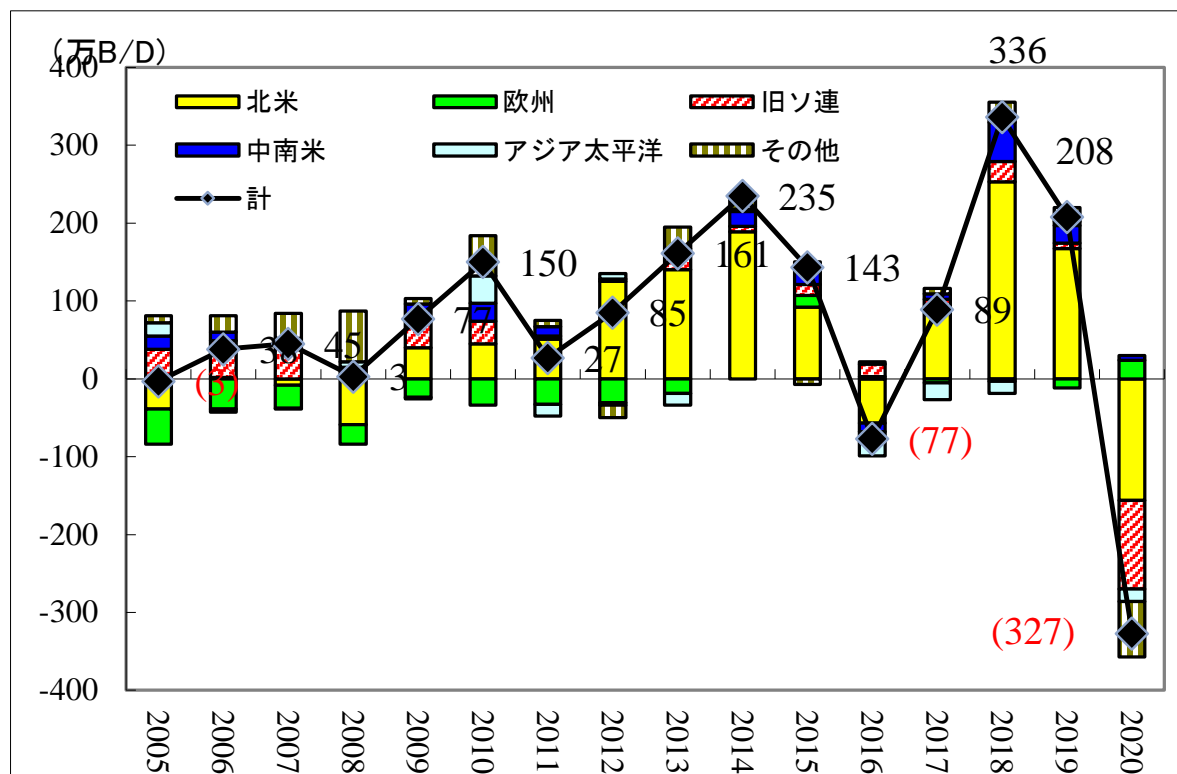
WTIは4月20日にマイナス価格も。5月に入って上昇、18日は30ドル台へ



# 低価格に対応し、急速に進む生産低下

- 4月、OPECプラスで9.7MBDの生産削減に合意
- 5月、生産削減開始。OPEC10生産目標は20.6MBD（前月比10MBD強減）
- 6月の生産目標は19.4MBD（サウジ、UAE、クウェートが追加削減）
- 高コスト生産地域（米国等）は低油価で生産大幅減へ
- 2020年の非OPEC生産は前年比3.3MBD減へ

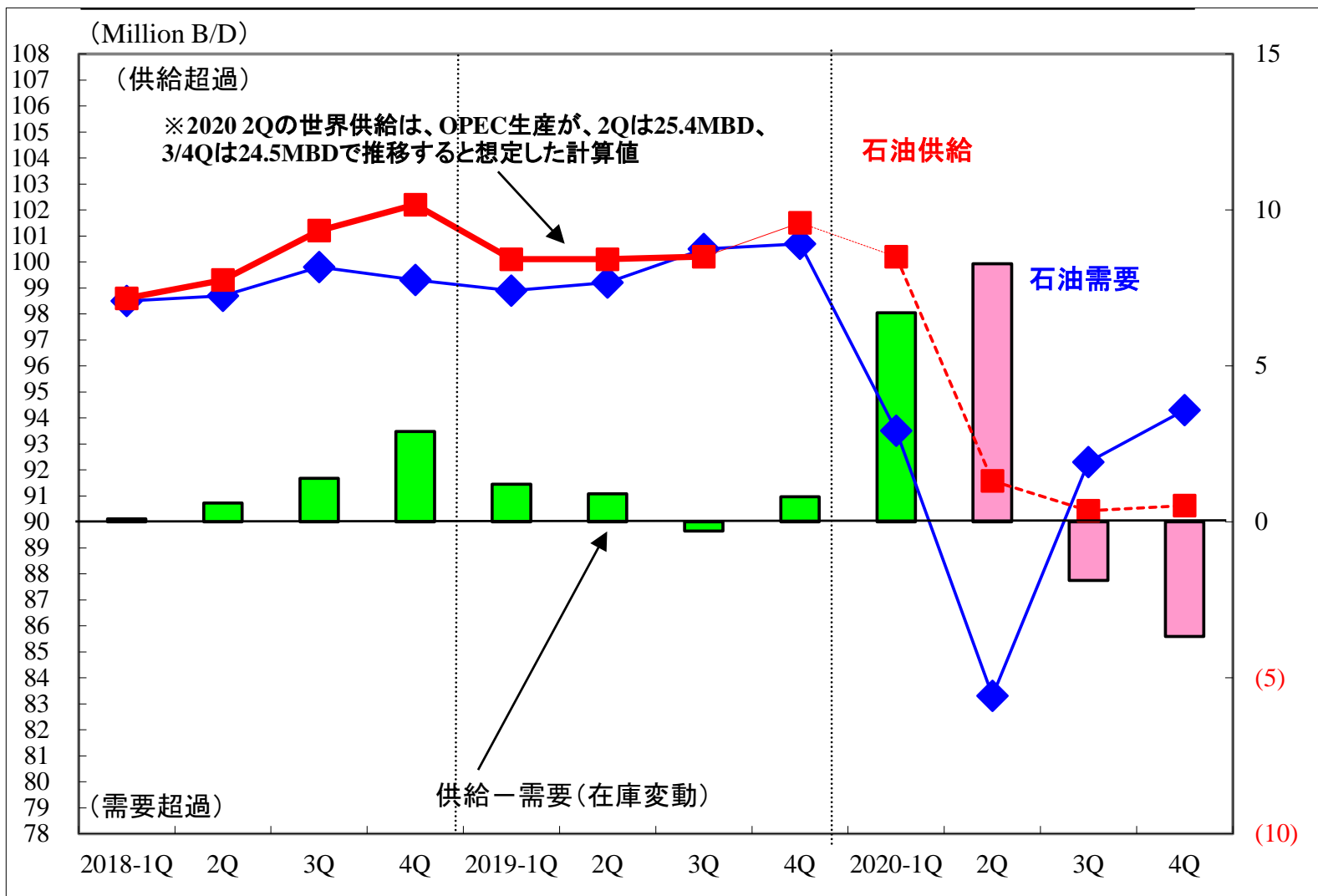
## 非OPEC生産見通し



(出所) IEA 「Oil Market Report」 (2020年5月)

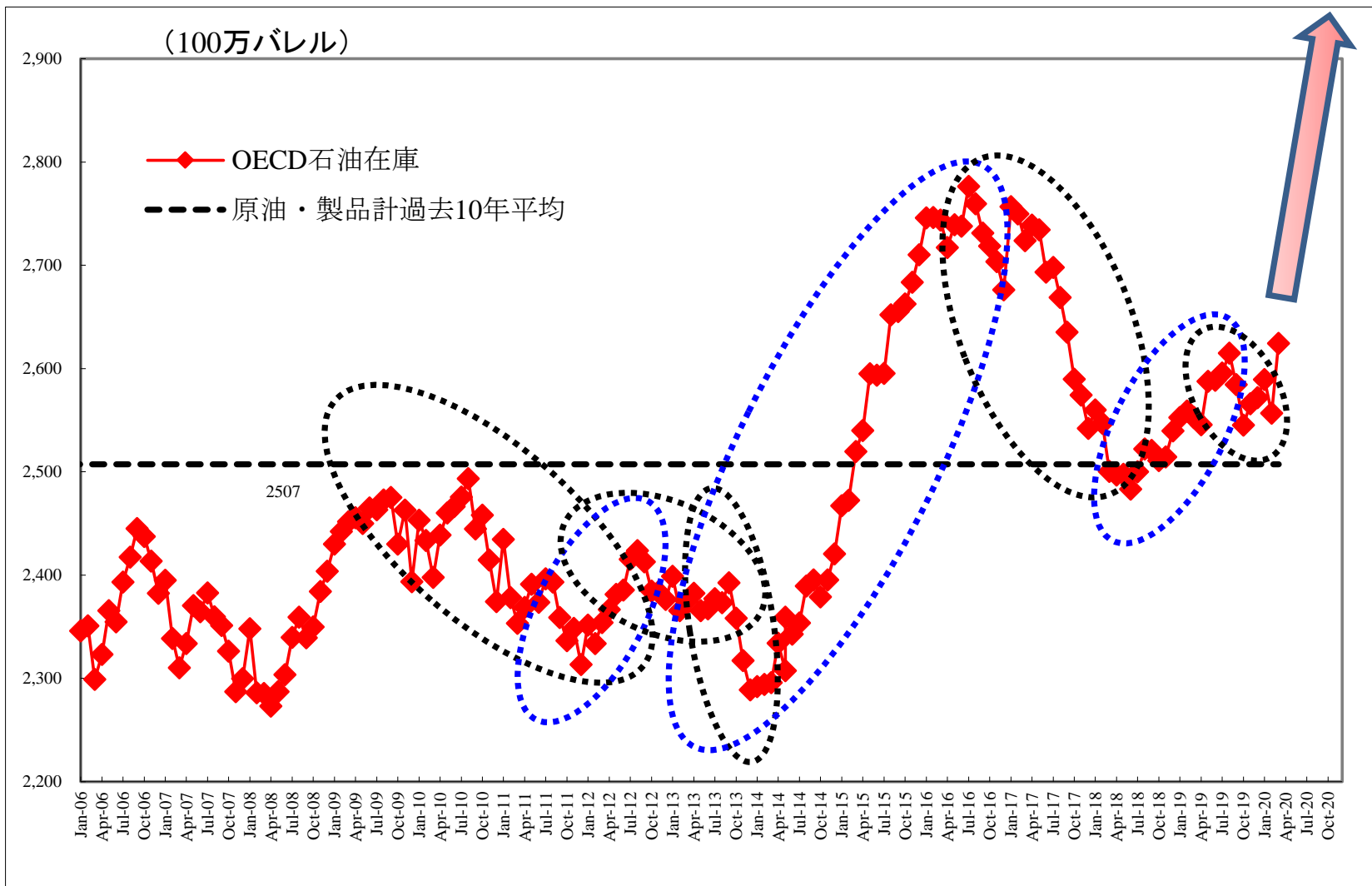
# 2020年の石油需給見通し

## 2020年2Qまでは大幅供給超過、3Q以降は需要超過？



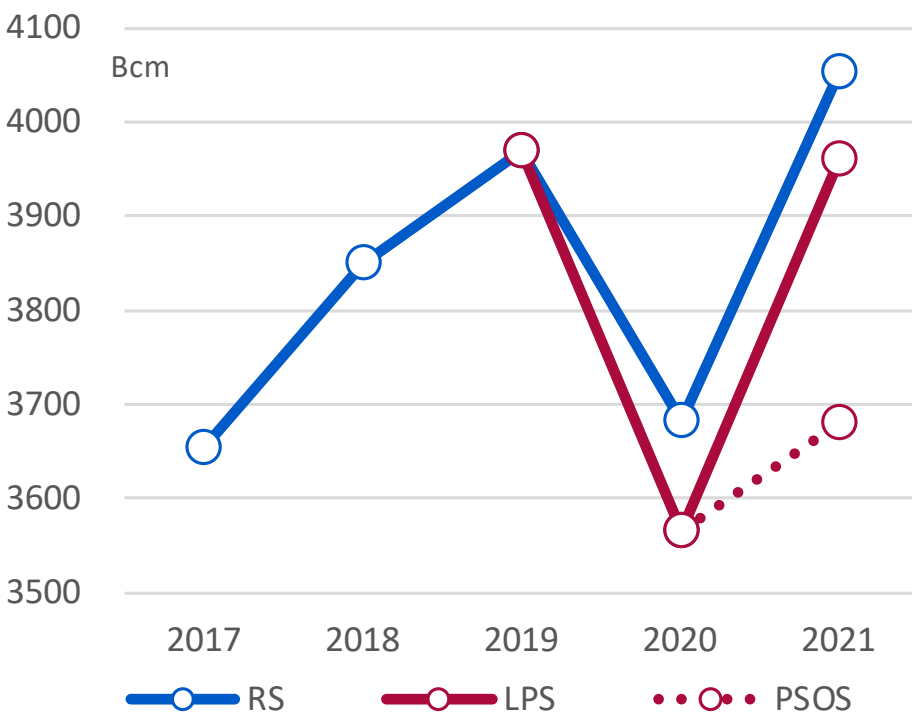
# OECDの民間石油在庫動向

足下の大規模供給過剰で、2Qは石油在庫は急増へ

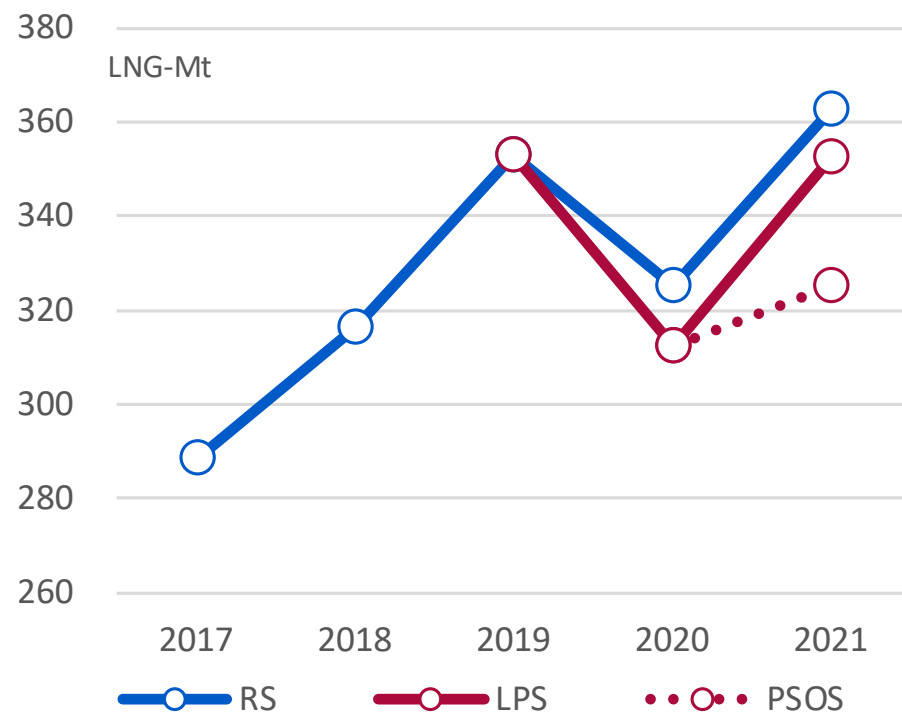


# 2021年に至る世界のガス・LNG需要（3シナリオ）

## 天然ガス需要



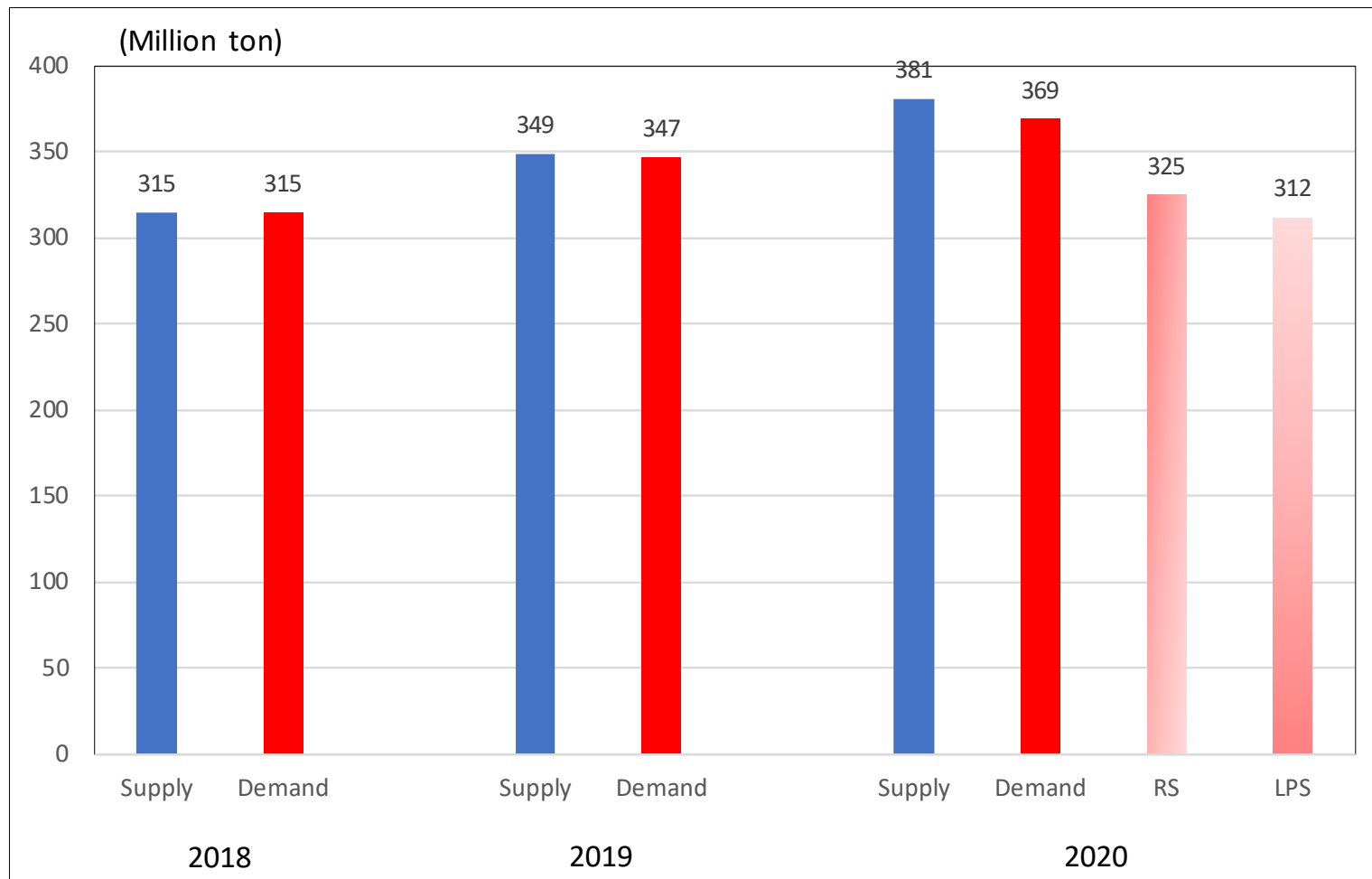
## LNG需要



(注) RS: Reference Scenario、LPS: Longer Pandemic Scenario、PSOS: Pandemic Second Outbreak Scenario

# 需要低下で需給緩和加速する世界のLNG市場

## 2020年は当初から供給過剰予測、需要減でさらに悪化

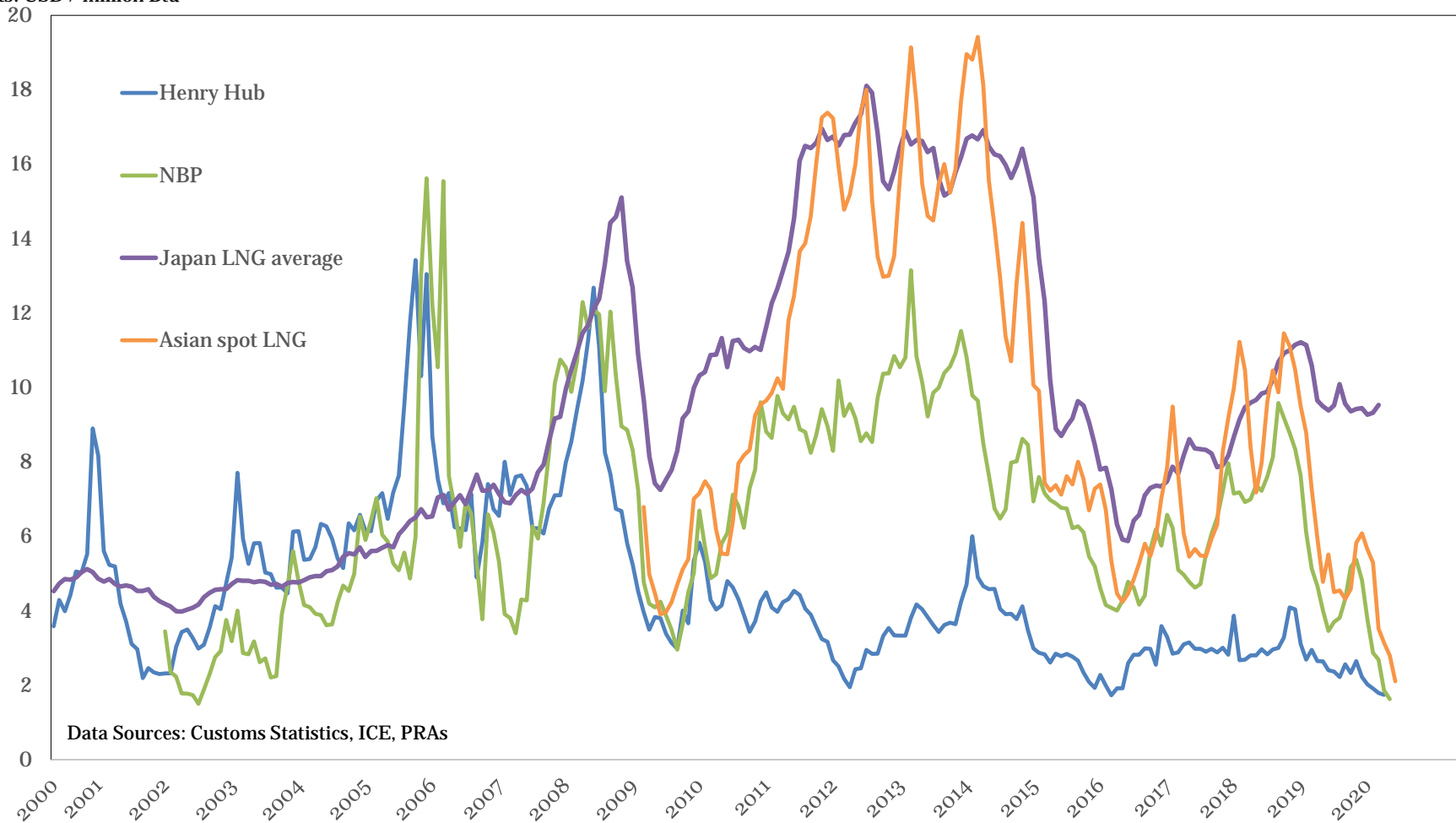


(注) 2020年のRSは世界経済3%マイナス、LPSは6%マイナス

# 世界の地域別ガス価格

## アジア向け価格は、長契は今後低下へ、スポット価格と大きな乖離

Units: USD / million Btu



(出所) US EIA他

# 供給側・需要側のレスポンス

## ■ 供給側

- 石油では「OPECプラス」が戦略的レスポンス
- 米国等では低価格の経済圧力が供給減に大きく作用
- ガス・LNGには「OPECプラス」に相当する機能なし
- LNGでも低価格の経済圧力が作用し始める状況

## ■ 需要側

- 石油市場では、主要消費国による戦略備蓄積み増しオプションの検討と実施で、需給調整を図る動きも
- 「都市封鎖」のインパクトが大きい石油では、その解除・緩和の動きが重要。低価格による需要刺激は限定的か
- ガス・LNGは石油に比して低価格の需要刺激効果は大きい可能性
- 競合燃料（石炭等）との価格差動向も影響



# 国際エネルギー産業と産油国への影響

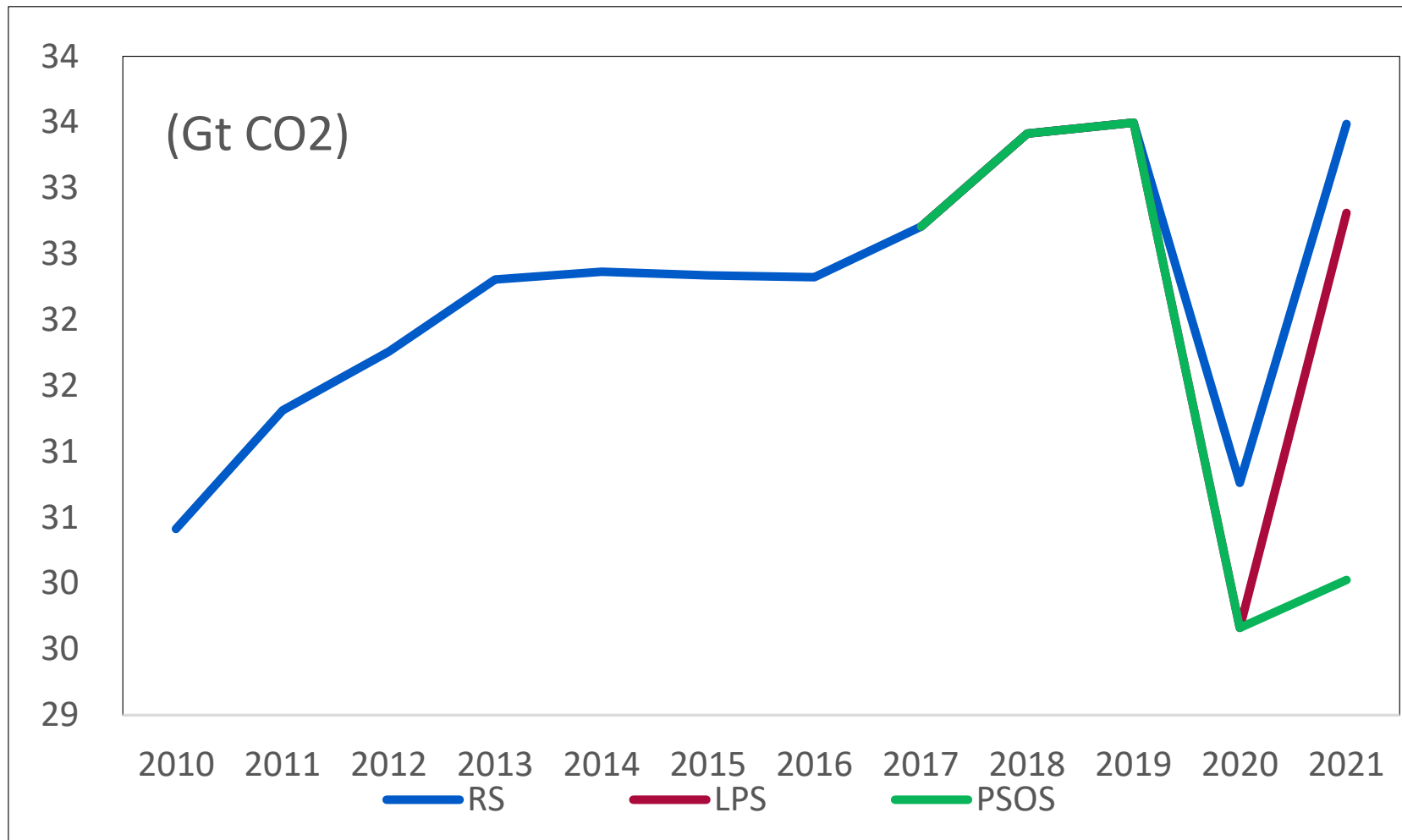
- 需要減少と価格低下で、IOC・NOCともに経営には大打撃
- コスト削減と支出抑制で全体としては投資大幅削減
- 低価格・低需要期間の長さ次第で、さらなる経営努力も必要に
- 産油国経済も需要低下・価格下落で大幅な落ち込み
- 自国でのCOVID-19拡大がさらなる追い打ちも
- 経済悪化・窮乏化で、国内体制・政治情勢に影響する可能性も
  
- 現時点では大幅供給過剰だが、将来の不安定化が播種される状況

# パンデミックによる構造的影響：Key Questions

---

- 石油需要の構造的抑制が発生するか、その度合いは？
- 「電力化」進展の度合いはどの程度加速されるか？
- 「ポスト・コロナ」回復戦略と低炭素化はどのような関係に？
- 自給率向上重視は、エネルギー選択にどう影響するか？
- 「大きな政府」のエネルギー政策はどこに向かうのか？
- 「Gゼロ世界」の地政学情勢はエネルギー戦略にどう影響する？

# 参考：3シナリオにおけるエネルギー起源CO2排出



(注) RS: Reference Scenario、LPS: Longer Pandemic Scenario、PSOS: Pandemic Second Outbreak Scenario

# まとめ

- **パンデミックの今後の帰趨には大きな不確実性**
- **世界経済や「都市封鎖」の今後も予断は許されない**
- **当面、大幅供給過剰は不可避で、価格にも圧力作用**
- **しかし、低価格による供給・需要サイドのレスポンスも**
- **低価格は、エネルギー産業・産油国に大打撃**
- **将来の不安定化の可能性に留意すべき**
- **注目されるポスト・コロナのエネルギー選択**
- **Gゼロ世界の新しい地政学情勢に対応したエネルギー戦略が重要**